

市長となんでも 語ろう会



勝山市が、市民の自主的なスポーツ活動の場、国民体育大会などの競技スポーツの場、健康増進施設、大規模災害時における避難所、大規模イベント会場などとして、第5次勝山市総合計画の中で平成28年の供用開始を目指している「新体育館の建設」計画について、市民の皆さまと市長との話し合いをします。

とき **10月4日** (火) 午後7時～9時
 ところ 市民会館 大ホール
 内容 新体育館の建設について

チャイルドルームを
用意しています!

お子様連れの方も
気軽にご参加ください。

まちづくりに関するご意見・ご提案をお待ちしています。

☎ 未来創造課(市役所2階) ☎88-1115 (FAX88-1119)
 E-mail mirai@city.katsuyama.lg.jp

このうち、今の時期に注意しなくてはならないのが、マムシ、ハチ類、ガの仲間、ウルシなどの植物です。重要なのは、危険のある生物かどうかを見分ける知識です。例えばウルシなどは見分けができればまず被

害にあいませぬ。次に、服装については長袖長ズボンが基本です。さらに首のタオル、帽子、軍手、長靴などで、ほとんどの生物からの被害を受けなくなります。とにかく皮膚の露出を避けることが重要です。例えば、マムシは日本の代表的な毒蛇ですが、攻撃範囲がわずかで、毒牙も短いため、長靴を履いてさえいれば、咬まれるへびではありませぬ。ハチについては、黒いものを狙う傾向がありますので、明るい色の服や帽子をおすすめします。

第4回 危険な生物とのつきあい方



「勝山エニライフ」コラム



まず、勝山で気をつけるべき主な生物は、ツキノワグマ、マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどのハチ類、アブやブユ、ドクガやイラガなどのガの仲間、ウルシの仲間、一部の有毒植物やキノコ類などです。このうち、今の時期に注意しなくてはならないのが、マムシ、ハチ類、ガの仲間、ウルシなどの植物です。重要なのは、危険のある生物かどうかを見分ける知識です。例えばウルシなどは見分けができればまず被

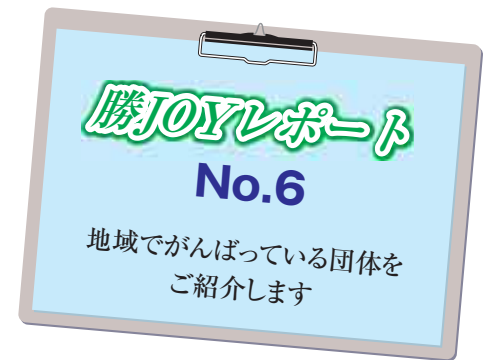
害にあいませぬ。次に、服装については長袖長ズボンが基本です。さらに首のタオル、帽子、軍手、長靴などで、ほとんどの生物からの被害を受けなくなります。とにかく皮膚の露出を避けることが重要です。例えば、マムシは日本の代表的な毒蛇ですが、攻撃範囲がわずかで、毒牙も短いため、長靴を履いてさえいれば、咬まれるへびではありませぬ。ハチについては、黒いものを狙う傾向がありますので、明るい色の服や帽子をおすすめします。

万が一のために、是非持っていてほしいものが、ポイズンリムーバーという毒を吸引する道具です。これはハチ、アブ、ブユ、ヘビなどに咬まれた際に、毒の影響を軽減するもので、登山用品店などで入手できます。また、マムシについては、血清が福井社会保険病院に常備されていますので、携帯電話に番号(0779-88-0350)を登録し、咬まれたらすぐに連絡できるようにしてください。特に保護者や学校関係者は迅速に対応できることが求められます。

勝JOYレポートの第6弾をお届けします。今回は、昨今のワークライフに合わせて、無理なく地域活動する「平泉寺町婦人会」と、昔から受け継がれてきた仏教を地区の宝として大切に、かつ和気あいあいと活動する「薬師神谷婦人会」をご紹介します。

婦人団体ご紹介

キラリと光る



無理のない婦人会活動を 平泉寺町婦人会



活動のきっかけ
 町の文化祭や敬老会、町民運動会や九頭竜ワークショップへのボランティア活動、婦人学級や1日研修など、年間を通して活動しています。また、各支部では地区の清掃活動や花壇の苗植え・草取り、文化祭の作品作りなどの活動をしています。

時代に合った学習会
 婦人学級や1日研修は、現代に合った内容や研修としてしています。最近、AEDの学習会や太極拳、ヨガなど健康に関することをバランスよく学習しています。また、県内外の視察ができる1日研修には、たくさんの会員が参加してくれています。

輪(和)がモットー
 以前はたくさんの会員がいて、あらゆる行事に婦人会の力が大いに発揮されていましたが、現在は会員が減少しています。そこで、会員で役割を分担し、一人ひとりが無理なく楽しく婦人会に参加でき、その中で自然に笑みがこぼれて人と人の輪(和)に繋がることをモットーに頑張っています。

平泉寺町婦人会会長 前川のり子さん

受け継がれてきた仏教婦人会 薬師神谷婦人会



活動のきっかけ
 ・夕涼みやコスモス祭り、敬老会でのお手伝い
 ・文化祭の出品や地区の掃除、花壇作り
 ・仏教婦人会 など

仏教婦人会とは
 年に一度、地区の方が集まり、「ごえんさん」(住職)からお経やお説教をいただいたあと、婦人会員が自宅で作った野菜を持ち寄り、調理した数々の料理でおもてなしをします。何十年前から班の当番制で行われてきた仏教婦人会は、母から娘へ、姑から嫁へ受け継がれてきました。しかし、6年前から婦人会が地区の行事として行っています。地区の方との交流と親睦を深めるこの行事を、地区の宝として大切に引き継いでいきたいと思っています。

今後の活動
 会員同士が行事を分担・協力し、また料理などを教えたり教えられたりできる“和気あいあい”をモットーとして、笑いの絶えない婦人会活動をしていきたいと思っています。

薬師神谷婦人会支部長 石塚直美さん